



穴澤和紗(あなざわ・かずさ)は1988年東京生まれ、2010年武蔵野美術大学造形学部通信教育課程入学、14年同課程修了、12-13、14-15年美学校「超・日本画ゼミ」を受講している。2011年から発表をし始め、同年の創画展入選や様々なグループ展に参加、今回は初個展である。

個展名は「afterlife」であり高知麻紙又は雲肌麻紙に墨、岩絵具、時にはコーヒーを素材として使用した大小様々な作品を13点、展示した。イラスト風人物、風景といった具象的な何かを表した作品だけではなく、具象とも抽象ともいえる/いえない作品もある。詩的タイトルも印象的だ。

「通称、美術のプロ」の世界では、作風が一貫していないと「ダメ」だと言われる。自分のスタイルが確立していないからと良く言われるが、実は見る者の眼が育っていないとか、本質を見ようとしなくて、固定概念で見ているからそうなるのである。見る側がそうしないだけの問題だ。

個々の作品に胎動している声を聞けばいい。すると、展示空間が非常にゆったりし、大きな作品の細部は囁き、小さな作品には広大な交響曲が流れている。もし穴澤自身が迷っているのであればこの声に自信を持てばいい。自らが描く世界は作品自身である以上の何者でも無いからだ。

